

21世紀へ世界の共生探る

「神在月縁むすび世界大会」

文化、経済人 講演、討論熱っぽく

松江

縁結びの神話でゆかり二十一世紀に向けての共通の出雲地方で、人間同士「目的、目標などを探りあった。国際的な信頼関係を築いた。」

この二十二日、「第一回 神在月縁むすび世界大会」が松江市西川津町のくにびきメッセで開かれた。参加者らは講演、パネルディスカッションなどを通して、

大会は前衛音楽（ヒーリングミュージック）の宮本富実夫氏のライブで開幕。評論家の草柳大蔵氏、哲學家の久司道夫氏がそれぞれ講演。小松昭夫小松電機産業社長ら五人のパネリストが「世界どの共生・競争を目指して」をテーマに討論するパネルディスカッション、分科会があった。

明が何を生んだのかを説明。「これからの文明は知識の積み重ねではなく、知恵の再生産だ」として、人間の在り方を提言した。

このうち草柳氏は「現代文明の転換点と出雲阿国」をテーマに現代文



現代の文明について講演する草柳大蔵氏＝松江市西川津町のくにびきメッセ